



国民の森林・国有林

中部森林管理局

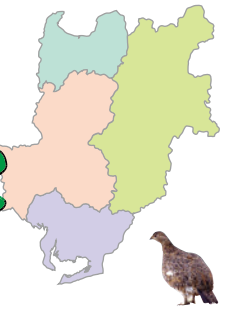
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

# 中部の森林



東信森林管理署管内 清万（せいまん）採種園

## カラマツ優良種子の安定的な供給に向けて 環状剥皮技術講習会を開催

主な項目	○ 木曽の国有林見学会（春季）を開催 .....	P2
	○ 各地からのたより .....	P4
	○ シリーズ「森林官からの便り」 .....	P9
	○ シリーズ「ご当地自慢」 .....	P10



**木曾の国有林見学会(春季)を開催**

「名古屋事務所・木曾署・ふれセン」

五月二十八日、木曾森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曾川下流域の住民を対象とした「木曾の国有林見学会(春季)」を開催しました。

この催しは、江戸時代から現在まで深い繋がりをもつ木曾地域と名古屋の関係や、森林・林業について理解を深めてもらうこと、さらに木曾復興支援の取組みを目的に、名古屋市熱田生涯学習センターと共催により開催したものです。

見学会は、応募者多数であったため抽選により当選された名古屋市民四十五名の参加者と、ガイド等を行う国有林職員七名により実施しました。参加者は、名古屋事務所に集合し、隣接する「熱田白鳥の歴史館」で、地域の歴史と木材利用をテーマとした展示を見学しました。

その後バスに乗車し、車中で「かつては三百日をかけて熱田白鳥まで木材が



赤沢自然休養林を散策

運ばれていた」ことなど、木曾と熱田との関わりや木曾の林業の歴史、木曾の生活についての事前学習をしつつ木曾路を遡っていきました。

赤沢自然休養林に到着した後、都会の喧噪とはまったく無縁な、五月晴れの新緑の清しい中で昼食をとりました。その後、森林鉄道に乗車し、車窓から見える、森林と溪流が織り成す景色を堪能しながら終点「丸山渡停車場」に移動しました。職員の案内により、江戸時代から約三百年余の時を刻み、見事に成長した木曾ヒノキやサワラが鬱蒼と生い茂る林内を散策し、木曾の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曾五木の樹種の見分け方や特徴などを学びました。



御神木伐採式の三紐伐りを学ぶ皆さん

参加者からは「普段の生活とかけ離れた所に行けて良かった。」「森林・せせらぎ・小鳥のさえずり・静けさ等普段は感じ取ることができない体験ができた。」

との感想が寄せられました。

なお、この催しに際し王滝村長からの「木曾復興支援へのお礼の言葉」とともに、「木曾川源流の水の旨さを味わってください。」とのメッセージが伝えられ王滝村の水で試作・製造した飲料水「銀河の雫」が配られました。参加者からは「冷たくておいしい！提供に感謝します。」との声がかれました。

次回は、赤沢渓谷の紅葉の見ごろとなる時期に実施する予定としています。



見学会に参加された皆さん

**森林整備センター中部整備局が業務現地検討会を開催**

「名古屋事務所」五月二十六日、岐阜県美濃市内において、国立研究開発法人森

林総合研究所森林整備センター中部整備局主催の「平成二十七年業務現地検討会」が開催され、岐阜県、美濃市、森林組合、林業事業者などの関係者、約六十名が参加し、中部局からは局、名古屋事務所、森林技術・支援センター、飛騨署、岐阜署から十四名が参加しました。

今回の検討会は、森林整備センターが実施している複層林誘導伐、基幹作業道(林業専用道)などにより進めている水源林造成事業への理解を深めるため開催されたものです。



現地で説明を受ける参加者

開催場所は市内片知地区で、地元所有者、岐阜県中濃農林事務所、NPO法人(杣の杜学舎)、根尾開発等と間伐や作業道等の経営計画を策定した分収造林契約地(五四・〇六㍻)でした。



複層林の造成は、森林の公益的機能を持続的かつ高度に発揮させる帯状や群状の複層林を造成するため、複層林誘導伐と植栽が行われていました。路網の整備は、森林整備センター分収契約地と隣接する森林を一体的に整備するため、開設した基幹作業道と林道中美濃線を接続し、循環して利用できるよう整備が進められていました。

現地検討会の最後に全体を通して意見交換が行われ、参加機関の作業方法や考え方などについて情報交換が行われました。

これまで機会に恵まれなかった森林整備センターとの現地検討会に参加できたことで実行機関によって森林整備等の取扱いや考え方が違うことを知ることができ、有意義であったと感じました。

今後も民有林との交流を進めることで国有林として地形や所有形態等に応じた、より効果的な民国連携のあり方も見えてくるものと考えています。

**カラマツ優良種子の安定供給に向けて  
技術講習会を開催  
(環状剥皮の実施)**

〔東信署・森林整備課・技術普及課〕

カラマツ苗木生産は、植付箇所減少から縮小傾向にある中で、中部森林管理局では、近年の合板や集成材への需要の高まりなどにより、業界からカラマツ種子を提供してほしいとの要望を受け、昨



採種園管理の講義

年、東信森林管理署管内清万（せいまん）採種園から約七十八キログラムの球果を採りました。

六月二日、今後の優良種子の安定的な供給に向け、同地において国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センターの協力を得て技術講習会（環状剥皮）を実施しました。

同センター育種部指導課久保田技術指導役の指導のもと、結実促進のための採種園管理の方法やカラマツの着花促進に有効である環状剥皮の技法について指導を受けました。その後、参加者三十九名（林木育種センター三名、山梨県一名、長野県一名、関東森林管理局五名、中部局・東信森林管理署二十九名）で二段、三段剥皮や、剥皮幅を変えた環状剥皮を計四十本実施しました。

清万採種園での環状剥皮等の実施は約三十年ぶりであり、今回実施した環状剥

皮の着花促進効果について経過観察を行うとともに、今年度、カラマツ採種園の着花促進のため、採種園内の路網整備と併せた受光伐等を実施することとしています。



環状剥皮実施後の清万採種園

**大鹿村保育園の  
鶯ヶ巣ピクニック**

〔伊那谷総合治山事業所〕五月二十二日、小渋川治山事業所で実施している鶯ヶ巣の大崩壊地を、大鹿村保育園の園児たちが訪れました。

鶯ヶ巣崩壊地は、民有林直轄治山として当治山事業所が昭和三十九年より事業を実施しています。

このたび大鹿村保育園長から建設会社に対し、「園児たちは機械が大好きで是非現場で重機とふれあいたい。」との強い要望が出されたことから建設会社のご厚意により実現したものです。



将来の林野庁職員がこの中から？

事業地近くの安全な場所に重機を移動させ、ふれあいの場を設けました。当日は朝から晴天の見学日和となり、建設会社の用意した数台の重機を前に目を輝かして、当所職員及び現場代理人の説明に熱心に聞き入っていました。その後、実際に重機に乗ったり、触ったりして大はしゃぎでした。



順番を守ったのは最初だけ…



特に、ミニバックホウが人気となり最初は、順番で待っていましたでしたが、その後、待ちきれなくなつて多くの園児が同時に乗つたり触つたりしながら、楽しいピクニックとなつたようです。

子供たちが直に機械にふれることで建設現場に興味をもち、今日の出来事を父母等に伝えることを通じて、治山工事への理解が深まればと考えています。

また、将来国有林野職員への道を希望する学生に育つてくれることを期待する次第です。

## 各地からのたより

### 各県で植樹祭が開催される 「とやま森の祭典」

〔富山署〕五月二十二日、入善町五十里の「入善海岸防災林造成予定地」において「ぼくたちの みらいへとどけ きぼの木」をテーマに第十六回とやま森の祭典が開催されました。

当日は、五月晴れの好天に恵まれ、花とみどりの少年団員、農林漁業関係者約二千名が県内や岐阜県から参加し、海岸での生育に強いクロマツを中心にタブノキやアキグミを植えました。

また、「豊かな海づくり大会」が十月二十五日に富山県で開催されることから、森づくりと豊かな海づくりの連携の姿を多くの人にアピールするため、キジハタの稚魚を放流しました。



キジハタの稚魚を放流



森林クラフト作りをする参加者

また、同時に開催された「森とふれあいフェスティバル」に当署が参加し、木材の循環的利用や災害の防止など森林のもつ公益的機能をパネルでPRするとともに森林クラフト教室を開催しました。参加した小学生や一般客から喜ばれ、大盛況に終えることができました。

### 「ふるさとの森づくり県民の集い」 第六十六回長野県植樹祭

〔技術普及課〕五月三十日、長野県大町市鹿島槍スポーツヴィレッジにおいて、長野県・中部森林管理局・大町市などの主催により第六十六回長野県植樹祭が開催されました。今回の植樹祭は、第六十七回全国植樹祭一年前イベントとしても位置付けられ「育てよう小さな木から大きな森」を大会テーマに実施し、中部森林管理局からは局長、中信森林管理署長など十名が参加しました。

会場は、鹿島槍ヶ岳、爺ヶ岳を望むスキー場で行われ、プレゼンターとして二〇一五年度ミス日本みどりの女神（佐野加奈さん）も加わり歓迎アトラクション、式典、森林整備、森林教室等が行われました。



全国植樹祭のシンボル「木製地球儀」の披露

式典では、主催者等の挨拶後、開催地で持ち回りしている全国植樹祭木製地球儀のお披露目や苗木を各自が育て、全国植樹祭で植栽するための苗木のホームステイの引渡し、猟友会によるキジの放鳥などが行われました。続いて、招待者みどりの少年団、一般参加者らによるブナ、ミズナラ、ヤマモミジ等の植栽や除伐、木製プランター製作が行われました。



みどりの少年団とともに植樹

会場内の展示・体験ブースでは、森林整備活動報告、一本ぞり展示、ヤギの触れ合い体験などが行われていました。

中信森林管理署のブースでは、コンテナ苗の説明や中部森林管理局の事業概要を説明したパネルを展示し、職員が熱心に説明し、PRに努めました。

今回の植樹祭は、晴天に恵まれ成功裏のうちに終了しました。この成果は来年



の全国植樹祭の成功につながるものと思  
います。

## 第六十七回愛知県植樹祭

「名古屋事務所」未来まで 大きく育て  
木とわたし」をテーマに、愛知県植樹祭  
が五月十六日、国内有数の緑化木生産地  
である稲沢市の「文化の丘公園」を会場  
にして、地元選出の国会議員や関係機関  
から多くの方々が出席され盛大に開催さ  
れました。

式典では大村愛知県知事から「今年  
は愛知万博十周年を記念し全国都市緑化  
愛知フェアを開催します。緑化意識を高  
めに緑の輪が広がることを期待します。」  
と挨拶。大野稲沢市長は「稲沢市は植木  
の全国四大産地であるが六十七回目に  
して初めて開催させていただいた。鎌倉時  
代に中国から伝わった接木技術など歴史



植樹祭式典の様子

と文化とともに緑を守り育て次世代の子  
供たちに継承していきましょう。」と呼  
びかけました。

緑化コンクール入賞校や緑化功労者  
等々の表彰式の後、みどりの少年団と、  
愛知県「緑の大使」のマリクリスティ  
又さんが「緑を守り育て、引き継いでく  
れる人を育てながら、緑とともに活動の  
輪を更に大きく発展させ、将来に引き継  
いでいきます。」と緑の誓いを宣言しま  
した。

式典セレモニー終了後は、参加者全員  
で公園内にコブシやシラカシなど七種  
類、二千本の広葉樹を記念植樹しまし  
た。



シラカシ等を記念植樹

### 全国育樹祭に向けて

#### 「百年の森づくりリレー」が 東濃地域からスタート

〔東濃署〕 岐阜県は、今年十月に揖斐川

町で開催される第三十九回全国育樹祭を  
盛り上げようと、会場で使われる丸太を  
伐採し県内全市町村をリレー形式で巡る  
「百年の森づくりリレー」を始めました。

四月二十七日、県下五地域ごとに行  
われるリレーの先陣を切って東濃地域の  
「伐採式」が中津川市加子母の民有林  
「美林萬世の森」で行われました。

林業関係者ら約百名が出席し、古田肇  
知事が「森林への感謝の気持ちを込めて  
丸太をリレーするこの催しは今回の育樹  
祭で初めて行われる岐阜県ならではのも  
の。木の国、山の国、清流の国岐阜を皆  
で大切にしよう。」と挨拶。続いて古田  
知事や桂川裕樹中部森林管理局長らが斧  
入れを行ったあと、「裏木曾三ツ伐り保  
存会」(牧野義則会長)のメンバーが三  
方向から斧を入れる伝統的な伐採方法  
「三ツ緒伐り」で樹齢百年のヒノキを  
伐採しました。



斧入れをする桂川局長



三ツ緒伐りの斧を振るう上野忠光さん

樹高三十メートル、胸高直径五十四センチの大  
木が地響きを立てて倒れると出席者から  
歓声と拍手が起りました。最後に地元  
の中学生が、伐採した木の梢を切り株に  
挿す「鳥総立て」を行い、森の恵みに感  
謝しその再生を願いました。

伐採木は五メートルの長さの丸太に加  
工され、五月三日、中津川市付知町で  
開催中の「つけち森林の市」に移され  
て「出発式」が行われました。同町内で  
製作された大小の木製台車に載った二本  
の丸太は、県重要無形民俗文化財の付知  
町木遣り音頭に先導され、地域住民ら約  
三百人が曳いて歩きました。  
これらの丸太は、このあと恵那市など  
を巡り、他の地域をリレーされた丸太と  
ともに育樹祭会場の木造施設用材などに  
利用されるということです。

なお、今回行われた「三ツ緒伐り」に  
は、東濃森林管理署OBの上野忠光さん  
(七十七歳)が指導役で参加され力強く  
斧を振るわれました。上野さんは国有林



このように国有林関係者も様々なわってリレーが始まりました。今秋の育樹祭の成功に向け、国有林として引き続



青山中津川市長と育樹大使・竹内智絵さん

の現場第一線において班長として長年活躍し、また、三ッ緒伐りの技師として伊勢神宮式年遷宮用材の伐採にも携わり伝統技法の承継に尽くされました。このようなお功績から平成二十一年には瑞宝章光章を受章されています。  
また、出発式では、国有林職員で県恵那農林事務所に出向中の竹内智絵さんが「育樹大使」として登壇し、青山節児中津川市長から育樹祭に向けた宣言が刻まれたプレートと市木・コウヤマキの苗木をあずかる大役を担いました。さらに会場で披露された木遣り音頭は遷宮用の木曾ヒノキの伐採・搬送を題材にした国有林と縁深いもので、その保存会には職員OBも多く携わってきました。

き積極的に参加、協力していくこととされています。

### 東信地域の各地で

#### 森林祭（植樹祭）を開催

「東信署」五月二十三日、東信地域の佐久地区及び上小地区において、森林祭が開催されました。

六十七回目を迎える佐久地区森林祭は、東信森林管理署、軽井沢町、佐久地方事務所などの主催により、軽井沢町の長倉山国有林内の千ヶ滝において開催されました。林業関係者、一般参加者など約二百名が参加し、約一畝の会場では、ナラ等の広葉樹約一、二〇〇本の植樹と景観施業として除伐作業を行いました。

また、二十七回目を迎える上小地区森林祭は、東信森林管理署、東御市、上小地方事務所の主催により東御市「芸術む



佐久地区森林祭会場

ら公園」において開催されました。地元地域のみどりの少年団をはじめ、林業関係者、一般参加者など総勢約四百名が公園周辺の約〇・八畝の植樹会場に分かれ、コナラやヤマザクラなどの広葉樹約一、五五〇本を植樹しました。  
両会場とも晴天に恵まれ、平成二十八年度に長野県で開催される全国植樹祭のプレイベントとして、盛況な森林祭となりました。



上小地区森林祭の様子

### 上下流の連携による 水と緑の感謝祭

「木曾署・ふれセン」六月七日に木曾郡王滝村松原スポーツ公園をメイン会場として、「水と緑の感謝祭」が開催され、木曾川下流域の住民を中心に愛知用水や中日森友隊の隊員など約三百名が参加しました。

この水と緑の感謝祭は、昭和五十九年



瀬戸川風致探勝林を学ぶ参加者

九月十四日に発生した長野県西部地震による荒廃地の復旧を通じ、未来世紀へ豊かな森林を継承するという目的で平成十一年から王滝村、愛知用水、当署等で構成する「未来世紀へつなぐ緑のバトン」実行委員会で実施しているものです。

開会式では来場者全員で御嶽山噴火災害の犠牲者を悼む黙祷をささげたあと、実行委員会を代表し、王滝村瀬戸村長から「水と緑を守り、未来に引き継いでいきたいので、下流域の皆さんにも力添えをいただきたい。」との挨拶がありました。

当日は、木曾森林管理署、木曾森林ふれあい推進センターの職員もスタッフとして参加し、瀬戸川風致探勝林の自然散策の案内や松原スポーツ公園の除伐作業の指導を行いました。

下流域の参加者からは「溪谷とヒノキ



の林がマッチしてきれいだっただ。」木曾の森林があつて私たちの水があるということを実感した。」また、上流域の参加者からは「下流域の方の水源地を思う気持ちがありがたい。」などの感想が寄せられ、森林と水の大切さを実感していました。

今後も国有林のフィールド提供やイベントでのスタッフの派遣など、地域と連携した取り組みを通じ、地域振興に寄与していきます。



除伐作業を行う参加者

「山を知って木材を知る」  
（上松技術専門校林業実習）

〔木曾署〕 五月八日、長野県上松技術専門校訓練生四十二名が小川入国有林で林業体験を行いました。

この林業体験は、昨年三月に上松技術専門校、木曾官材市売協同組合及び当署

の三者で締結した「職業訓練のための木曾産木材の供給と利用等に関する協定書」に基づき、実施したものです。

当日は、学校側の「木材がいかに大事に育てられるのかを知ってもらおう」という実習テーマを踏まえ、当署と木曾森林ふれあい推進センターが実施しました。

午前は、熊の皮剥ぎ被害防止テープ巻き作業を行いました。初めに職員が「木曾地域は熊による被害が多いこと」「被害を受けた樹木は成長できず、良質な材木にならないこと」などを説明した上で、森林技術員による作業の実演を行い、作業に取りかかりました。



「木材を育てる」林業体験

当初、訓練生は慣れない手つきで立木にビニールテープを巻いていきましたが、職員のアドバイスを受けながらコツをつかみ、午前中に予定した箇所の作業を終了することができました。



木曾ヒノキ林の成り立ちを学ぶ

午後は、赤沢自然休養林内の樹齢二五〇〜三〇〇年の天然林が見渡せる学術研究コースを散策し、職員の解説により、木曾ヒノキ林の成立過程や木曾の歴史などを学びました。

訓練生からは「急斜面での作業で疲れた。」「このような作業をすることにより、材料を大事にすることが理解できた。」「木曾の山に人が多く関わってきたことや、厳しい気候で育っているから、緻密な木材となることが分かった。」等の感想をいただきました。

上松技術専門校では、三者協定に基づき、今後も製材工場の見学などを通じて製材品の作製過程等も学びながら技術の研鑽に役立てることにしています。

「よみがえれ！ミズバシヨウ」

〔飛騨署〕 五月三十一日、岐阜県の天然記念物（昭和四十四年指定）「山中峠の

ミズバシヨウ群落」において、ニホンジカなどの食害からミズバシヨウを守るため電気柵の設置作業を実施しました。

同区域は、林野庁の「山中山ミズバシヨウ植物群落保護林」でもあり、作業には、「山中山のミズバシヨウを守る会」（地元荘川町寺河戸町内会）、高山市、岐阜大学、森林管理署から三十六名が参加しました。

この群落では、平成十八年と二十一年にミズバシヨウの葉や根が野生動物によって食い荒らされていることが確認され、平成二十二年、岐阜大学の調査によりニホンジカとイノシシがミズバシヨウの根茎まで掘り起こし採食していること等が明らかにされました。この結果を受け、地域の自然環境の保全を進めるためには、行政、地域住民、拠点研究機関である岐阜大学が連携して取り組むことが



電気柵設置の様子



重要だとして、平成二十三年に、電気柵の設置を含む保護活動が開始されました。

自動撮影装置を用いた調査データにより、六月下旬から十一月にかけてニホンジカが湿原に侵入することが確認されたことから、毎年、この時期に電気柵を設置しています。五回目となる作業のため参加者は手慣れたもので、さらに今回は、多くの岐阜大学生の参加が得られたことから作業はスムーズに進みました。毎年この取組によって、防護柵内での食害はほぼ完全に防いでいます。

岐阜大学ではさらに積極的な回復を目指すとして、町内の休耕田を利用したミズバショウ苗の育成、湿原植物相の調査、野生動物相の調査、播種試験等も実施しています。調査では、小型無人機（フアントム3）を活用した、上空からのミズバショウ等の分布把握も行っています。

年々、ニホンジカの分布域が拡大し高山帯への侵入も懸念されることから、今後、個体数調整と合わせた取組が必要となっています。

当署管内の天生高層湿原植物群落保護林においても同様の被害が発生していることから、今年度から天生県立自然公園協議会、飛騨市、岐阜大学及び飛騨森林管理署が連携して電気柵の設置を進めることとしており、山中山での取組が活かされることと期待しています。

### 岐阜県と合同で

### コンテナ苗を試験植栽

〔東濃署〕四月二十三日、東濃森林管理署管内の湯船沢国有林（岐阜県中津川市）において、岐阜県（本庁森林整備課、恵那農林事務所、森林研究所）、中部森林管理局森林技術・支援センター、東濃署が合同でコンテナ苗の試験植栽を行いました。

コンテナ苗は、従来の苗（裸苗）に比べて植栽の時期を柔軟に選ぶことができ、大きな植付穴を掘らずに済み作業を軽減できるなどの特徴があり、森林の若返りを進めていく上で普及が期待されていますが、岐阜県内では緒についたばかりのため、今後の取組に役立てようという関係者が協力し、国有林において試験を行うこととしたものです。



組合せを変えて育てたコンテナ苗

当日は、県森林研究所が用意した、根鉢の大きさや培地等の組合せを変えて育てたヒノキのコンテナ苗六百本を、茂木同研究所主任専門研究員や西田技術・支援センター企画官らの指導で、約〇・二七畝の試験地に植えていきました。

東濃署からは業務グループのほか治山グループ、森林官、森林技術員ら二十三名が参加し、各機関の参加者とともに、コンテナ苗専用のスピードやディブルと呼ばれる植付道具、刃の幅や角度を工夫した改良唐鍬などを手に取って、それぞれの使い勝手を確かめながら作業を行いました。



試験地に苗を植える参加者

植付を終えた職員からは、「植付道具を地面に突き刺してあけた穴にコンテナ苗を差し込み軽く整地するだけでよく、あつけないほど作業が簡単だ。」「試験地（緩斜面）ではディブルが扱いやすかつ

た。急斜面で植えるなら改良唐鍬が打ち込みやすく、他の道具より体重移動も少ないので威力を発揮するのではないかと。」「根鉢が嵩張るため一度に運べる数が少ないのが難点。」といった声が聞かれました。

また、隣接する伐採跡地では、造林を請け負った事業体の協力を得て、コンテナ苗及び裸苗の作業効率を比較・検証するために功程調査を行いました。

当署では、今年度、ヒノキのコンテナ苗四万本の植栽（昨年度は九千本）を計画しており、今回のような試験植栽も含め、地域でのコンテナ苗の普及・定着を目指して、今後さらに取組を進めていきたいと考えています。

### 佐久市白田中学校生徒を対象に「森林教室」を開催

〔東信署〕六月一日、白田中学校において、二年生の生徒百十八名を対象に「森林教室」を実施しました。

今回の「森林教室」は、七月七日に予定されている同校二学年の麦草峠から双子山までの北八ヶ岳登山の事前学習として開催しました。「北八ヶ岳の自然について学習する」という趣旨のもと、森林のはたらきや国有林の取組、八ヶ岳の生い立ち、縮枯れ現象、北八ヶ岳に多く生息しているコケの生態、湖沼の紹介など、生徒たちの登山コースで観られる自然について学習しました。





北八ヶ岳の自然を学ぶ生徒たち

また、ゴール地点である双子山について触れ、「地元（佐久市）の最高地点です。」との説明に驚きの表情を浮かべる生徒もいました。

最後に、双子山に二学年の生徒全員が揃ってゴールし、達成感に満ちた七夕を迎えることを約束し、森林教室を終えました。



〔中信署 大野川森林事務所〕

森林官 井澤 恵夫

大野川森林事務所は、長野県西側の松本市安曇に位置し、中部山岳国立公園内の剣ヶ峰を最高峰にした乗鞍岳、白骨・沢渡・梓湖・前川渡・奈川渡・水殿地区の梓川上流に隣接した国有林を管理しています。

乗鞍岳の最高峰、剣ヶ峰（三、〇二六〇）からは、浅間山、北アルプス、御嶽山、八ヶ岳、中央アルプス、南アルプス



森林事務所から望む乗鞍岳（4月下旬）

が一望できます。

長野県側から乗鞍岳に向かうには、長野県道乗鞍岳線を利用します。なお、三本滝から乗鞍岳山頂間において、マイカー規制を実施していることから、山頂までのアクセス方法はシャトルバス又はタクシーに乗り換えていただくこととなります。なお、四月下旬から五月の中旬



位ヶ原から大雪渓に続く雪の壁

頃までは、位ヶ原から大雪渓の間、雪の壁が見られ、さらに、融雪が進むにつれて、七月頃からはコマクサをはじめ、クロユリ、コケモモのほか二十種類以上の高山植物の花々が見頃となり、八月頃まで見られます。



乗鞍岳登山道脇のコマクサ

昨年は、ツキノワグマが数頭、観光・登山客の目の前に出没したり、ハイマツ群生の中で同じ場所に一週間程、留まるハプニングがありました。

また、大野川地区では、ニホンジカの目撃情報があり、乗鞍岳の高山植物の食害が心配される状況です。

平成二十七年度は、中信署管内のニホンジカの目撃情報を集めて共有し、今後の対策を検討することとしています。

さらに、これまで十数年にわたり、乗鞍岳の高山植物保護や美化活動等を、六月から十月までの期間、グリーン・サポート・スタッフ（GSS）と協力しながら行っています。



乗鞍岳の紅葉

これから、春の季節が過ぎ梅雨の時期を迎えるため、急激な天候の変化や落雷等に注意し、早めの判断で安全に業務を遂行していきたいと思えます。

人のういき

中部森林管理局人事

六月十二日付

▽休職（南木曾支署 森林技術員）

（平成二十七年八月七日まで更新）

下林 浩二

行事・会議等の予定

◎国有林作業現場見学会

7月9日 東濃署管内

◎高山植物等保護対策協議会

7月16日 中部局

◎夏休み！子どもふれあいDAY

7月31日 中部局





駒ヶ根高原

駒ヶ根市は、長野県南部の伊那谷のほぼ中央に位置し、東に南アルプス(赤石山脈)、西に中央アルプス(木曾山脈)の三千級級の山々を、市内から望むことができます。「駒ヶ根」という名前は、駒ヶ岳の麓のまちという意味で、昭和二十九年の市政施行時に命名されました。

◆駒ヶ根高原

駒ヶ根高原は、駒ヶ根市でも最も人気の高い観光スポットとして親しまれています。



ます。中央自動車道・駒ヶ根ICから車で約五分とアクセスが抜群に良く、中央アルプスの名所「千畳敷カール」まで、ロープウェイで気軽に行くことができます。駒ヶ池のほとりから眺める四季折々の風景は、写真愛好家の注目の的になっており、なかでも例年十月中旬から十一月月上旬ごろ、中央アルプス頂上から山麓にかけて見られる紅葉は息をのむ美しさです。温泉郷やペンション、美術館、地ビールレストランなど観光施設も充実しており、ゆったりのにびり過ごすには最適な観光地です。

◆中央アルプス千畳敷カール

日本百名山にも名を連ねる木曾駒ヶ岳(二、九五六m)を最高峰とする木曾山脈、通称中央アルプスは、飛騨山脈(北アルプス)、赤石山脈(南アルプス)とともに、日本アルプスと呼ばれています。中央アルプスは南北に長いものの、東西の幅は約二〇km程度といわれています。

このため標高約六〇〇mの登山口から一気に二、〇〇〇mほど高度を上げる急峻な登山道が多く、沢や滝が点在するのが大きな特徴です。しかし稜線に出ればおだやかな地形になり、こうした変化が人気の理由となっています。

千畳敷カールは、今から約二万年前に、氷河のゆったりとした流れにより、地表面が削り取られ、すり鉢状になった



一面にシナノキンバイが群生

地形となり、その規模の大きさから「千畳敷カール」と呼ばれています。春の千畳敷カールは、スキー客と夏を待ちきれない観光客、夏は、可憐な高山植物が咲き競い、秋は、山肌一面が黄金色に輝き、冬は、紺碧の空と純白の景色が楽しめます。

◆光前寺

十余棟の堂塔を備え、霊犬・早太郎伝説が伝わる名刹で、貞観二(八六〇)年に本聖上人が開基した信州屈指の大寺



光前寺

で、南信州随一の祈願霊場として広く信仰を集めています。境内の庭園は国の名勝に指定され築山泉水庭で、一説には極楽浄土の庭園ともいわれ、四月中下旬に見ごろを迎えるしだれ桜も有名です。

また、樹齢数百年の杉の巨木が立ち並び参道の脇には光苔が自生し、幻想的・神秘的な情景を演出します。

◆霊犬早太郎伝説

約七百年前、光前寺に「早太郎」というとても強い山犬がいました。その頃、現在の静岡県磐田市の見付天神社では毎年祭りに娘を人身御供として供える悲しい習慣がありました。娘をさらう怪物の老ヒビが早太郎を恐れていると知り、光前寺の住職は早太郎を向かわせ、見事その老ヒビを退治したという伝説が残っています。天神社からは書与した大般若経が奉納されたそうです。



霊犬早太郎像

◆アクセス

千畳敷カール

JR 飯田線 駒ヶ根駅下車

バス・ロープウェイ 六〇分

光前寺

JR 飯田線 駒ヶ根駅下車

バス 一五分